

# ウズベキスタン

Republic of Uzbekistan

①人口：2,707万人（2008年初） ②面積：44万8,900km <sup>2</sup> ③1人あたりGDP：1,027米ドル （2008年）		2006年	2007年	2008年	
	④実質GDP成長率（%）	7.3	9.5	9.0	
	⑤貿易収支（米ドル）	13億6,980万	18億9,350万	32億7,950万*	
	⑥経常収支（米ドル）	15億5,190万	16億3,070万	37億8,920万*	
	⑦外貨準備高（金を含まない、米ドル）	37億7,840万	51億9,380万	87億5,820万*	
	⑧対外債務残高（米ドル）	37億6,880万	37億2,530万	37億9,610万*	
	⑨為替レート（1米ドルにつき、スム、期中平均、公定レート）	1,218.91	1,263.46	1,319.58	
	（注）*予測値 （出所）①②④：ウズベキスタン国家統計委員会，③：IMF，⑤～⑧：欧州復興開発銀行（EBRD），⑨：ウズベキスタン中央銀行				

## ■9%成長を維持，金融危機の影響は軽微

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2008年の実質GDP成長率は9.0%（目標8.0%）と前年の9.5%に続き目標を上回る高成長を示した。鉱工業生産が前年比12.7%増、農業4.5%増、固定資本投資28.3%増、建設8.3%増と、農業と建設を除き前年同様2ケタの伸びを示した。

鉱工業部門では燃料や機械・金属加工の生産が増加した。原油（ガスコンデンサートを含む）は前年比2.4%減の480万トンにとどまったが、天然ガスは3.5%増の677億立方メートルと前年に続き増加した。機械・金属加工も乗用車メーカーのGMウズベキスタンとバス、トラックを生産するサムオートの順調な生産に支えられ23.5%増と前年（29.0%増）に続く伸びとなった。乗用車は主要輸出先であるロシアの景気後退の影響を受け、目標の20万台には届かなかったものの19万5,038台（前年比13.5%増）の生産を達成し、バス、トラックも1,556台（39.4%増）を生産した。

軽工業は綿繊維が117万4,200トンと前年比4.4%増となったものの、綿糸は10.5%減、綿布は27.5%減と前年からの不振が続いている。前年に3.2%増とわずかに回復した原綿の生産量は340万500トンで8.5%減となった。

消費者物価上昇率（12月比）は公式統計によると7.8%で過去2年続いた6.8%を上回った。IMFやアジア

開発銀行（ADB）もそれぞれ年平均で前年を上回る12.7%、13.0%と計算している。ADBでは2008年の前半に顕著であった食料品の国際市況の急騰や国内公共料金の値上げなどが影響したとみている。

ウズベキスタンは国際金融市場にほとんど関与していなかったために2008年は金融危機の影響を直接には被らずにすんだが、2009年はロシアやカザフスタンなど主要な貿易相手国や出稼ぎ労働者の受け入れ先で生じた経済不振の影響を受けることが予想される。政府も金融危機の影響を危惧し、2008年11月の大統領令UP-4058「実業部門の企業支援、安定操業確保、輸出潜在力向上に関する措置プログラム」で、輸出企業に対する優遇措置や主要銀行に対する国家資本の注入、小規模・個人企業への統一税の軽減（8.0%から7.0%へ）など方策を講じている。

政府は2009年の実質GDP成長率を8.0%、鉱工業生産9.3%増、農業生産5.0%増、固定資本投資18.0%増、消費者物価上昇率（12月比）7.0～9.0%とほぼ前年並みの目標

表1 ウズベキスタンの主要国別輸出入 <通関ベース>

（単位：100万ドル，%）

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)				
	2007年		2008年		2007年		2008年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
ロシア	2,473.0	1,986.5	17.2	△19.7	ロシア	1,973.9	1,863.1	24.8	△5.6
スイス	380.8	1,032.9	8.9	2.7倍	中国	589.5	1,039.3	13.8	76.3
ウクライナ	630.0	978.7	8.5	55.3	韓国	784.3	965.1	12.9	23.1
イラン	554.1	536.6	4.6	△3.2	カザフスタン	730.9	452.6	6.0	△38.1
トルコ	590.5	534.4	4.6	△9.5	ドイツ	304.2	399.8	5.3	31.4
アフガニスタン	331.4	530.4	4.6	60.0	トルコ	203.8	255.9	3.4	25.6
カザフスタン	661.7	460.0	4.0	△30.5	米国	141.9	176.7	2.4	24.5
中国	314.4	257.4	2.2	△18.1	日本	62.3	146.5	2.0	2.4倍
米国	85.6	211.0	1.8	2.5倍	ベラルーシ	127.2	122.5	1.6	△3.7
キルギス	137.8	186.0	1.6	35.0	ブラジル	68.1	120.2	1.6	76.5
タジキスタン	191.8	156.9	1.4	△18.2	イタリア	44.2	81.1	1.1	83.5
日本	19.1	24.4	0.2	27.7	フィンランド	37.6	80.2	1.1	2.1倍
輸出総額	8,991.5	11,572.9	100.0	28.7	輸入総額	6,728.1	7,504.1	100.0	11.5

〔注〕 サービスを含む。

〔出所〕 表2とも、ウズベキスタン国家統計委員会。

表2 ウズベキスタンの主要品目別輸出入 &lt;通関ベース&gt;

輸 出 (FOB)	2007年			2008年			輸 入 (CIF)	2007年			2008年				
	構成比	構成比	伸び率	構成比	構成比	伸び率		構成比	構成比	伸び率	構成比	構成比	伸び率		
エ ネ ル ギ ー 製 品	20.2	25.2	60.5	機 械 ・ 設 備	49.6	53.3	19.8	機 械 ・ 設 備	49.6	53.3	19.8	機 械 ・ 設 備	49.6	53.3	19.8
サ ー ビ ス	10.7	10.4	24.4	化 学 品 ・ プ ラ ス チ ッ ク 製 品	13.1	13.0	10.5	化 学 品 ・ プ ラ ス チ ッ ク 製 品	13.1	13.0	10.5	化 学 品 ・ プ ラ ス チ ッ ク 製 品	13.1	13.0	10.5
綿 織 維	12.5	9.2	△5.4	食 料	7.2	8.1	26.1	食 料	7.2	8.1	26.1	食 料	7.2	8.1	26.1
機 械 ・ 設 備	10.4	7.5	△6.3	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	7.5	6.8	0.6	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	7.5	6.8	0.6	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	7.5	6.8	0.6
鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	11.5	7.0	△21.2	サ ー ビ ス	5.8	5.7	9.2	サ ー ビ ス	5.8	5.7	9.2	サ ー ビ ス	5.8	5.7	9.2
化 学 品 ・ プ ラ ス チ ッ ク 製 品	6.8	5.6	4.8	エ ネ ル ギ ー 製 品	3.5	2.1	△33.5	エ ネ ル ギ ー 製 品	3.5	2.1	△33.5	エ ネ ル ギ ー 製 品	3.5	2.1	△33.5
食 料	8.5	4.4	△32.5	そ の 他	13.3	11.0	△7.1	そ の 他	13.3	11.0	△7.1	そ の 他	13.3	11.0	△7.1
そ の 他	19.4	30.7	2倍												
合 計	100.0	100.0	28.7	合 計	100.0	100.0	11.5	合 計	100.0	100.0	11.5	合 計	100.0	100.0	11.5

を設定している。2009年第1四半期の実質GDP成長率は前年同期比7.9%、鉱工業生産9.9%増、農業生産5.7%増など金融危機の大きな影響はまだ現れていない。

### ■天然ガス輸出は大幅増、乗用車は減速

2008年の貿易（サービスを含む）は輸出115億7,290万ドル（前年比28.7%増）、輸入75億410万ドル（11.5%増）と輸出入ともに増加した。

輸出を品目別にみると、ロシア向けの天然ガス量の増加と価格引き上げによりエネルギー製品が60%以上伸びた。主要品目である綿織維はアジアへの輸出多角化が図られたが、総輸出額に占めるシェアは2007年より減少した。綿花の国際市況が年後半から低迷したことが影響しているとみられる。機械・設備もシェアを減少させたが、主要輸出相手国であるロシアへの乗用車の輸出不振によるものとみられる。国別ではロシア、ウクライナ、イランなどの主要相手国が前年と同じく輸出額の上位を占めた。

輸入を品目別にみると、機械・設備と化学品・プラスチック製品が増加した。国産乗用車とバス、トラックの生産増加にかかわる輸入増加によるものとみられる。国別では中国と韓国がロシアに次ぐシェアを占めた。

2008年の固定資本投資に占める外国からの投融資の割合は25.8%で前年（22.8%）を上回った。内訳は、前年に最大のシェア（45.5%）を占めた燃料・エネルギーが18.6%に減少し、代わって地質開発（28.1%）、運輸・通信（25.5%）の順となった。主なM&A（合併・買収）としては、ロシアの大手石油ガス企業ルクオイルによるウズベキスタンの石油ガス関連企業SNGホールディングス

表3 ウズベキスタンの対内直接投資の推移 &lt;実行ベース、ネット、フロー&gt;

	(単位：100万ドル)				
	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
対内直接投資額	176.6	191.6	173.8	705.2	754.6

[注] 2008年は予測値

[出所] 欧州復興開発銀行（EBRD）「Transition Report 2008」。

（英国資本）の買収（5億8,000万ドル）、韓国企業シンドン・エネルギーによる輸送企業ヨルレフトランスの株式取得（47%、1億7,500万ドル）などが挙げられる。中国はトルクメニスタンから輸入する天然ガスパイプラインのウズベキスタン国内建設作業を2008年半ばから開始した。韓国は、ナボイ国際空港のロジスティクスセンター

化に向けた協力やガス精製事業への協力、織維工場の買収など積極的な事業展開が目立った。2009年5月には李明博（イ・ミョンバク）大統領がウズベキスタンを公式訪問した。

政府は2008年12月、進出企業に対し優遇措置を備えた「ナボイ自由工業経済区」の設立を決めた（大統領令UP-4059）。ウズベキスタンのほぼ中央に位置するナボイ国際空港に隣接する地域に外国投資を誘致し、国際競争力のある製品を生産することが目的である。造成開始間もない現時点から誘致活動が活発に行われている。

### ■日本と投資協定を締結

日本側貿易統計（通関ベース）によると、2008年の対ウズベキスタン輸出は前年比17.4%増の7,621万ドル、輸入は94.3%増の3億1,245万ドルと輸入が急増した。

輸出を品目別にみると、原動機付きシャーシ（構成比22.2%）、貨物自動車（ディーゼルエンジン、構成比16.0%）、鉄鋼製橋・橋げた（7.5%）など、日本企業が参画するバス・トラックの組立生産や、政府開発援助（ODA）案件であるウズベキスタン南部での鉄道用鉄橋架橋建設に関連する品目の伸びが目立つ。輸入を品目別にみると、未加工用金が総額の98.3%を占め、この品目での最大の輸入相手国となった。そのほか、綿織物類（構成比1.5%）、織物原料（0.1%）、猛きん類に属する鳥（0.1%）などが続いた。

ウラン探鉱・開発に向けた合弁企業設立に関して、2008年9月に三井物産が、10月には双日が国家地質鉱物資源委員会との間でそれぞれ基本合意書を締結した。

2008年8月には日本ウズベキスタン投資協定が締結された。投資の許可段階から投資家保護が可能になる点や受け入れ国側が投資家に要求してはならない点を規定するなど、他国と締結した従来の協定に比べ踏み込んだ内容になっている。両国の国内法上の手続き終了後、発効する。